

1月31日 第14回職員実践・研究発表会
第二南陽園が最優秀賞を受賞しました(3頁参照)



3月号

平成 30 年 3 月 1 日発行
【発行者】〒168-8510
東京都杉並区高井戸西 1-12-1
社会福祉法人 浴風会
TEL (代表) 03-3334-2101
http://www.yokufuukai.or.jp/
【振 替】00140-7-122882
【編集者】露口 長
【印刷所】株式会社サイド・ビー

福祉士試験に魅せられて

公益財団法人社会福祉振興・
試験センター理事長

根本 嘉昭



平成八年四月、私はそれまでの全国社会福祉協議会、厚生省社会局(当時)、日本赤十字社での勤務を経て、立正大学に新設された社会福祉学部教員になりました。ほぼ同時に社会福祉士試験委員会副委員長に指名されて、以来二〇余年、社会福祉をはじめ精神保健、介護の各福祉士試験委員会の副委員長および介護福祉については委員長をも務めました。そして縁を得て昨年七月、これら三福祉士の試験や資格の登録に関する業務を国から委託されている社会福祉振興・試験センターの理事長職に就くこととなりました。

平成八年四月、私はそれまでの精神保健福祉士試験も今年で第二〇回を迎えることになりました。この間、三福祉士試験合計で延べ約三二〇万人が受験して、一五二万人を超える合格者を輩出してきています。

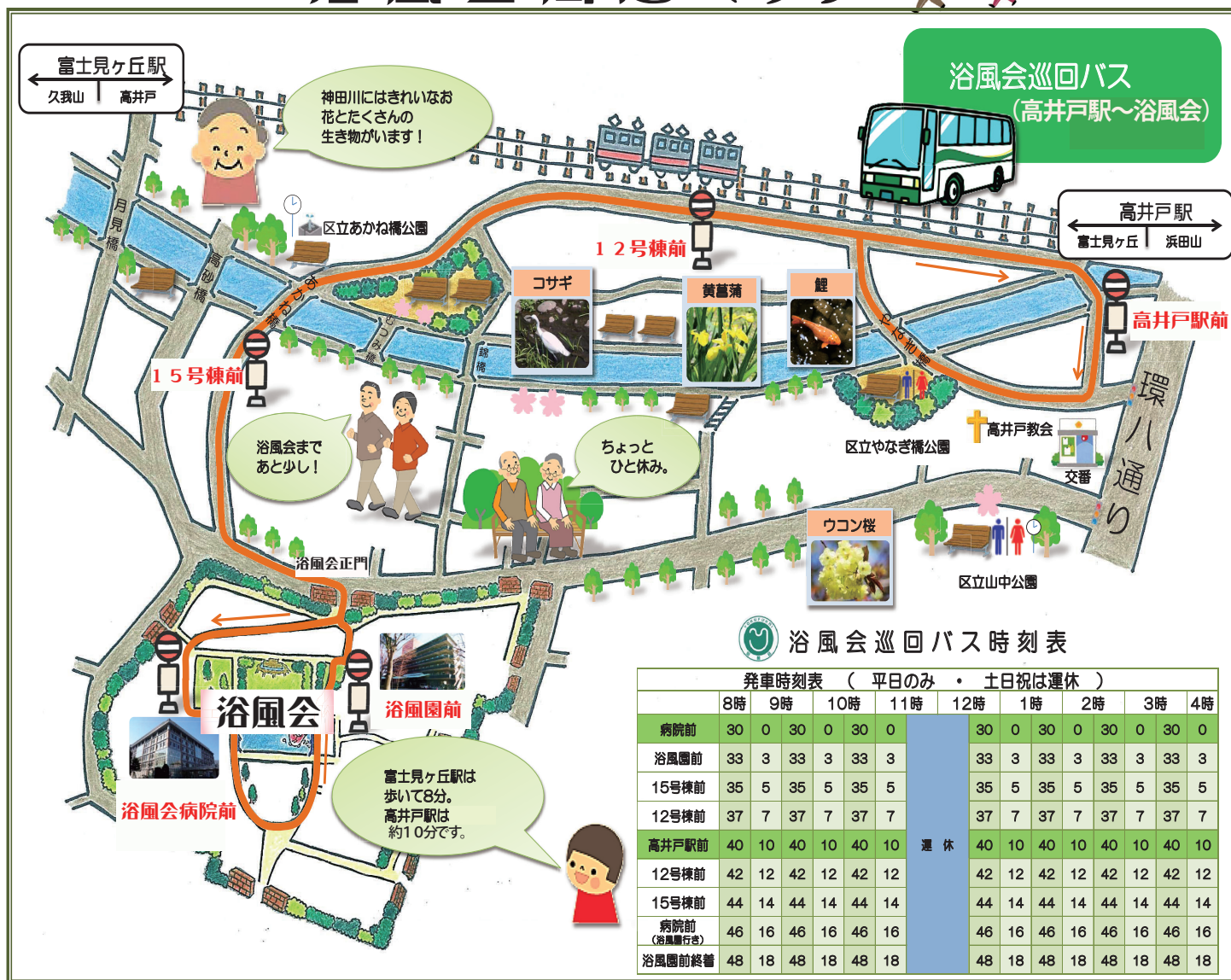
試験関係の業務は、試験問題の作成、試験の実施、資格の登録・管理、という三つの分野から成立しています。それぞれの業務が、秘密漏洩防止や様々なリスク管理を伴っており、適正・適切・公正・公平・厳正・厳格などに修飾されるような仕事の仕方を通じて、国家試験と資格のもつ社会的意義や権威を維持発展させてきたと思っています。これらの仕事は試験センターの職員だけでは到底こなせるものではありません。試験問題の作成については福祉系大学等の多くの先生方、試験の実施については厚労省のOB・OG・現役の方など、これまで試験センターを育て、また実際に支援されている方々の全面的な協力があつて初めて可能となります。また、いうまでもなく試験関連の仕事は一人一

人の受験者や試験合格者の生活や人生と深く結びついていています。私は、このような試験問題の作成から実施に至る、一つのミスも許されない緊張感、協力者の方々の思い、そして各受験・合格者のそれぞれの人生への影響の重みに、襟を正しつつも大きな魅力を感じています。

いま社会福祉は大きく発展してきており、私見ではありますが、その理念や考え方は行きつくところまで来たのではないかと。まだ多くの壁やステークホルダーがあり簡単ではありませんが、地域住民が主体となつて、だれもが安心して生活できる地域共生社会の創造をめざしていくというところまでは来ていると思うのです。

浴風会も、その流れをつくるうえでの先駆的なモデルを実践されてきておられます。そのような動きの中で国家試験の役割はとて大きい。試験合格者がそのような地域づくりの中核的存在となるような試験業務の推進に、これまで以上に心していきたいと思っています。

浴 風 会 周 辺 マ ッ プ



第 14 回 職員実践・研究発表会 プログラム 日時:平成 30 年 1 月 31 日

審査委員:委員長 田島誠一様(評議員)・習田由美子様(杉並区在宅医療・生活支援センター開設準備担当部長)
佐藤美穂子様(評議員)・佐藤信人氏(認知症介護研究・研修東京センター副センター長)

- 褥瘡予防に向けた多職種のつながり
～評価方法の見直しと情報共有～
南陽園 ケアワーカー 上條 優太・落合 将吾
- インカム導入の効果 ★ 最優秀賞 ★
～リアルタイムでの情報共有を目指して～
第二南陽園 ケアワーカー 宇田川 正義・佐々木 敬秀
- 医療職との連携から生まれる安全な生活
～医療的ケアと基礎的な医療知識の向上～
第三南陽園 ケアワーカー 山崎 典子・佐藤 一城
- 退院指導の必要性 ★ 優秀賞 ★
～いつまでもその人らしく～
浴風会病院 ケアワーカー 横内 一人
看護師 山下 和恵

- 浴風会病院 高井戸団地無料健康相談会の取り組みについて
～地域包括ケアシステム構築に向けた今後の在り方を考える～
浴風会病院医療相談・支援室 精神保健福祉士 高橋 智哉
地域包括支援センター 相談員 尾関 久子
- 在宅復帰を目指す家族支援 ～夜間の介護宿泊を実施～
老健くぬぎ ケアワーカー 平沢 純・銘苅 暁貴
- 「外を歩きたい」という気持ちに寄り添う
～外出支援・主観的健康感～
浴風園 ケアワーカー 山本 直希・小林 昌之
- 自己啓発 ～ 幸福度をあげよう ～
松風園 看護師 稲垣 美保子・岸川 沙織
- 今日もこの部屋で ★ 優秀賞 ★
～ターミナル期における他職種連携～
ケアハウス 生活相談員 隈本 真司

特別招待発表 <全国介護付きホーム研究サミット>

最優秀賞

やわらか食のとろける革命
～食のバリアフリー化へ、凍結含浸食導入 3食提供実現へ～
一般財団法人 日本老人福祉財団
佐倉 ゆうゆうの里 海老原 千波

第5回介護付きホーム事例研究発表全国大会受賞

第3位

「医・薬・介連携での適正処方へのアプローチ」
チームでの生活情報提供

SOMPOケアネクスト(株)
SOMPOケアラヴィーレ成城南 岡田 民子

第14回 職員実践・研究発表会 最優秀賞



インカム導入の効果

～リアルタイムでの情報共有を目指して～

第二南陽園 1階ケアワーカー

宇田川 正義
佐々木 敬秀



インカムとは職員同士が連絡を取り合う為に使用しているトランシーバーとヘッドホンマイクが組み合わさったものです。インカムを使用することで離れたところにいる者同士でも、素早い意思疎通が可能となり、職員全員が装着することによって、一斉連絡することができ情報共有の効率化を図ることが出来ます。私たちのフロアでは、平成29年3月からインカムを導入し、職員の速やかな情報共有体制を確保してまいりました。今回は、職員実践・研究発表会で発表した内容を改めて紙面上でご報告させていただきます。



(1) 研究前の状況・課題

インカム導入前は他の職員と速やかな情報共有・確認が必要になる時、大きな声を出したりフロア内を探し回ったりしていました。しかし、このような対応ではご利用者に不快感を与え、情報共有する上でも非効率で、多くの職員に情報を伝える為に労力と時間がかかってしまいます。実際にフロアで起こっていたヒヤリハットや事故報告の中では、事前に職員間で情報を共有し連携を図っていれば未然に防げていた内容が多くありました。そこでリスクマネジメント委員会では、対応について話し合い、検討を重ねた結果、情報共有に有効なインカムを導入する事になりました。

インカムの導入により、私たちが期待した効果は以下の4点です。

①インカムを使用し全職員が速やかに情報共有することで連絡・確認不足によるヒヤリハット・事故報告の件数を減らす事が出来るのではないかと。

②スムーズで安全なご利用者対応が出来るのではないかと。
③情報共有に対する意識向上を図ることが出来るのではないかと。
④インカムで情報共有を効率的に行うことによって情報共有に費やす時間が短縮され、ご利用者へのサービス向上に繋げるのではないかと。

(2) 取り組みの方法・内容

個々のご利用者の対応を行っていると、職員が全員集まって朝礼をすることが難しいことからインカムを使って朝礼を行い一日の流れやフロア目標の再確認を行うことにしました。

居室にてセンサーが鳴った際、ご利用者対応に行く職員は自分が対応する事を伝えるようにしました。また、ご利用者が臥床しセンサー作動確認の為にセンサーを鳴らす際にも事前に伝えることにより、職員が重複して対応する事を避けることが出来るようになりました。ご利用者対応中に必要なものがあっても、転倒リスクがあることからその場を離れることが出来ない時は、インカムで他の職員に必要なものの手配を依頼し、安全かつスムーズな対応を行うことが出来るようになりました。



ご利用者が転倒、体調の急変があった際には、インカムを用いて情報を発信することにより、タイムリーに情報共有し迅速な対応が出来るようになりました。

(3) 取り組みの結果

上記の取り組みにより、以下の4点の効果を得ることが出来ました。

①連携・連絡不足によるヒヤリハットや事故報告の件数について、28年度下半期では事故報告2件、ヒヤリハット15件、29年度上半期では事故報告0件、ヒヤリハット5件と減らす事が出来ました。

②今までは適切に行うことが出来なかった朝礼が、インカムを使用する事で毎日朝礼を行い、全員で一日の業務やフロア目標について共有し確認することが出来るようになりました。

③センサーが反応した際どの職員が対応するか確認出来る為、重複して対応する事はほとんどなくなりました。

④新人職員を中心にどのような時に報告・連絡・相談すべきか、他の職員がインカムで発信した内容を参考にし、情報共有の意識向上に繋がっています。

私たちのフロアでは今回インカムを導入する事で他職員との速やかな情報共有が行え、その結果ご利用者を待たせない、ご利用者に不快な思いをさせない対応に繋げることが出来ました。今では、インカムは職員の業務に馴染み、なくてはならないツールとなっています。これからもインカムを使用しながら職員間での情報共有を密にし、ご利用者がより安心して生活できるフロア作りに繋げていきたいと考えています。



佐々木さん

宇田川さん

浴風会の動き (2月)



全体研修 (2月7日)

【本部事務局】

2日 フランス国立人口研究所 マクダ・ドマシーニ所長他6名見学

6・9日 内部経理監査実施

7日 職員全体研修 「平成30年度制度改正に向けて、私たちは何を準備すべきか」医療、介護をめぐる」講師：結城康博・淑徳大学教授 (右写真)

(浅井)

浴風会ケアスクール

Caféオレンジリボンウッド

13日 千代田区介護講座「映像から学ぶ今すぐ役立つ認知症の対応」 「認知症の最新医学」講師：新井平伊氏、服部。参加者39名。

14日 よくふう語ろう会(認知症介護家族会)実施。参加者20名。次回は3月14日(水)10時30分から本館第三会議室にて開催します。

20日 千代田区介護講座「負担の少ない介護技術」講師：大澤。参加者36名。

23日 よくふう学ぼう会「生活習慣病対策第1回 健康講座」糖尿病と高血圧について」講師：山岡医師・田村。参加者34名。次回は3月23日(金)「生活習慣病対策第2回 健康講座」高脂血症と痛風とメタボリックシンドロームについて」を実施します。

caféオレンジリボンウッド開店。来店者61名。次回は3月12日(月)です。みなさまのご来店をお待ちしております。



27日 千代田区介護講座「認知症になる前から考える安心の備え」 「認知症に役立つ最新の介護用品あれこれ」講師：服部。参加者38名。

(鈴木)

【老人福祉事業】

2日 浴風園 (養護老人ホーム)

2日 節分会を開催しました。職員が鬼に扮し、園長から皆様一人一人に福豆を手渡しました。そして年男年女の皆様の紹介や記念撮影を行い、それぞれに一年の無病息災を願いました。



21日 来月のクラブ作品展示会に向け、作品の作成が行われています。昨年までに引き続き壁画作成も行われ、

多くの方々がホールに集まり紙を丸めたり貼り付けたりする作業に取り組まれています。(宮崎)

松風園 (軽費老人ホーム)

2日 節分会を行い、年女・年男の皆様には袴を着て参加していただきました。

今年も、和太鼓クラブの皆様が協力いただき、力強い太鼓の音も響いて賑やかな節分会となりました。雪の中を走る赤鬼、青鬼に豆を投げ、和菓子とお茶で歓談し、楽しいひと時となりました。



8日 今年も松風神社に豆腐をお供えして、利用者の皆様が使えなくなつた針を供養しました。

(宮中)

浴風会ケアハウス

2日 節分豆まき会を開催しました。今年一年の無病息災を祈りにぎやかな豆まきになりました。

13日 歌おう会を開催しました。元気に歌えば体も温まります。

(隈本)

【介護保険事業】

南陽園 (特別養護老人ホーム)

3日 「節分会」を行いました。鬼に扮した職員めがけ「鬼は外、福は内」。皆さん盛大に豆をまき厄払いをしました。



18日 アクティビティ委員会が企画した「デザートバイキング」を行いました。ケーキやプリンなど13種類から3・4種類を選んでいただき、とても好評でした。

評でした。

(丸山)

南陽園在宅サービスセンター

(認知症対応型通所介護)

当センターのデイサービスでは、お一人お一人に合わせて機能訓練やレクリエーションなどのサービスを提供しています。

また、認知症専門のデイサービスであることを活かし、在宅で支援されているご家族への助言等も行っています。

認知症の方やそのご家族が安心して地域で暮らせるよう、出来る限りのサポートをさせていただきます。(鈴木) ★各事業のお問い合わせは随時行っておりますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

電話 03-3334-2743 (鈴木・杉山)

第二南陽園 (特別養護老人ホーム)

3日 節分を行ないました。鬼に扮した職員めがけ「鬼は外、福は内」と、皆さん大きな声で元気良く豆をまき、無病息災を祈りました。

16日 富士見丘中学のボランティア活動があり、7段飾りの雛人形を戸惑いながらも楽しそうに飾っていました。



20日 第二南陽園の31周年の開園記念日に、フルーツ・ケーキバイキングを行いました。ご利用者からは「どっち

もあるのは贅沢ね」ととても好評でした。(植木)

第二南陽園在宅サービスセンター

(通所介護、介護予防通所介護)

3日 節分祭を行いました。後半からは、お雛様飾りを作りました。寒さとも和らいだ日は、立位体操の一環で浴風会内の散歩も行いました。午後の体操は、3〜5つのグルー


●03—3334—2140 (尾滝)

第三南陽園 (特別養護老人ホーム)

2日 節分会。豆まきを行いました。鬼に扮した職員が登場すると、ご利用者の方々「待ってました!」とばかりに、「福はー内!、鬼はー外!」と張り切って豆を投げたり、少し遠慮しながらやさしく投げたり、何故か玉入れの玉が飛んできたりと大騒ぎでした。鬼を退治した後は、鬼と仲良く写真撮影を行いました。

26日 職員研修「口腔ケアについて」を開催しました。訪問歯科の歯科衛生士の方に、口腔ケアの必要性やポイント、ケア用品の特性などを聞き、職員同士で口腔ケアをする実技も行いました。普段の口腔ケアを振り返る


とても有意義な研修でした。(谷口)

グループホームひまわり

3日 節分。豆まきを行いました。職員3名が赤鬼、青鬼に扮して登場すると、笑い出す方、怖がる方、「鬼は外、福は内」と必死に豆を投げる方など普段とは違う表情がみられました。豆まきを終えると皆様の歌のつて鬼がダンスを踊り笑顔が沢山みられました。

15日 1日遅れのバレンタインデーとして、おやつに皆さんでチョコマフィンを作りました。あまりバレンタインデーは馴染みがな


いようでしたが、チョココレートは大好きな方が多く「おいしいね」と喜んで召し上がりました。(今井)

【地域サービス事業】

地域包括支援センターケア24高井戸

2月8日に認知症介護研究・研修東京センターの大会議室をお借りして、『地域懇談会』を開催しました。杉並区の見守り協力員を中心に、民生委員、ケアマネ、福祉事業所の方々、町会・自治会、社協や障害の相談窓口担当者、区民センター協議会や学校関係者、見守り協力機関である浴風会等、様々な方々に集まって頂きました。先ずは、

顔合わせという事で、少し機関の紹介をしながら、この高井戸地域を意識して頂き、目指したい地域像を出して頂きました。やはり、何らかの繋がりやお互いの気持ちを持てる地域という声が多く出ていました。

次年度も引き続き、高齢者だけでなく、様々な世代が繋がり、誰もが安心して住みやすい地域を一緒に考えていく予定です。今後ともよろしく願います。(尾関)

地域包括ケア推進員・尾関まで
●電話03—3334—2495

【病院事業】

浴風会病院

現在インフルエンザが流行中です。当院においても感染対策を強化しているところで、外来患者様、ご面会の方にマスク着用のご協力をお願いしています。また、感染予防の為に十分な手洗いとうがいをおかけしましょう。(中澤)



●03—3332—6511 (代表)

老健くぬぎ (介護老人保健施設)

インフルエンザの流行も少しずつ収まってきているようです。くぬぎでは年始に6名の感染がありましたが大きく広がることはありませんでした。引き続き感染症予防に向けて取り組ん

でいきたいと思います。

4月に介護報酬改定が予定されています。老健の本来の役割である「在宅復帰」や「在宅生活に対する支援」が改めて明確に打ち出されるようです。くぬぎにおいても、より良い在宅生活が継続できるよう支援体制を強化して参ります。

5月10日 デイケアでは節分行事を行いました。皆さんの「鬼は外!福は内!」の掛け声の中、ご利用者に豆(に見立てた球)を鬼に投げて楽しみました。(森屋)

★入所・デイケア・ショートステイで利用のご相談はお気軽にご連絡ください。(森屋)

●03—5336—7701 (代表)
●03—5336—7734 (入所)
●03—5336—7704 (デイケア)

【研究・研修他】

認知症介護研究・研修東京センター

2日 第3回後期認知症介護指導者養成研修(東京センター・22名修了)

8日 内部会計監査受審

15日 3センター合同管理運営会議(名古屋市内)

19日 第2回認知症介護指導者フォローアップ研修(東京センター・14名修了)

*第3回認知症地域支援体制推進合同セミナー参加者数・284名(村上)

浴風会病院 診療案内 ⑨



呼吸器内科について

呼吸器内科医長 中川 朋幸

《呼吸器疾患ってどんなものがあるの》

呼吸器内科は肺や気管支におきる病気を診断・治療する診療科です。主な疾患としては肺炎、気管支炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、間質性肺炎、慢性呼吸不全（在宅酸素療法）、気管支拡張症、抗酸菌感染症（入院を必要としない肺結核・肺非結核性抗酸菌症）、悪性腫瘍（肺がん・中皮腫）などがあります。



《最適な医療の提供》

当院では受診の際に各種画像診断、血液検査、呼吸機能検査、喀痰検査などを行い、速やかに確定診断を行い検査結果を基に十分に病状説明をしたうえで、最も適切な治療は何かを患者様ご自身およびご家族の方と話し合い一番良い医療を提供していこうと考えています。

当院の歴史的背景より現在に至るまで主に高齢者の診療を行っており、高齢者に多い慢性閉塞性肺疾患や肺結核後の慢性呼吸器不全、専門的治療後の間質性肺炎などを中心とした診療を行っています。

《相談のうえ連携病院などを紹介》



肺癌については専門的な検査、治療が必要になるため適切な特定機能病院をご紹介します。検診などで胸部レントゲンに異常を指摘された患者様が当院を受診された場合、癌などの悪性腫瘍が疑われる場合には患者様、ご家族と相談しご希望の病院、もしくは当院と連携のある病院にご紹介をしています。



また、連携病院より専門的治療が終了した後の継続治療、在宅酸素療法の管理なども当院にて受け入れています。

《心配な方はご受診を》

呼吸器の病気は種類が多く症状の程度も軽症から重症まで様々です。

咳や痰、息切れ、胸痛など心配な呼吸器症状がある方や長年喫煙をしており息切れなどの症状が気になる方、あるいは健康診断などで異常を指摘された方など、どうぞ当院の呼吸器内科外来にご相談下さい。

呼吸器外来診療日：火曜・金曜の午前中

* 診察は予約制となりますので事前にお問い合わせ・ご予約をお取りください。

お問い合わせ先：浴風会病院 03 - 3332 - 6511 (代)

編集後記

今号では「浴風会周辺マップ」を紹介しました。

浴風会の地域貢献の一環として、平成24年4月から、高井戸駅とをつなぐ「巡回バス」（無料）を運行しています。午前8時半から午後4時まで昼休みを除き30分ごとですが、病院のご利用者、施設入居者を中心に1日延べ230人が利用されています。杉並区のコミュニティバス「すざ丸」を廉価で譲り受けたもので、外装を当会デイサービス車と同様の模様に塗り替えました。

浴風会の広大な敷地（6万4千平米）には長寿木（50年以上25本）を含む樹木が茂り、中に入ると、さわやかな風が吹きます。都会の中のアアシスといっても過言ではないでしょう。これから迎える春に浴風会を散策してみませんか。桜がまもなく芽をふきます。

ご芳志

平成30年1月16日から

平成30年2月15日

多くの方々よりご芳情をいただきました。

ありがとうございました。

〈金品・物品〉

張 忠信様、林 泰様、

宮沢 郁子様

●ほか、各施設にもいただいてあります。

【ご意見をお寄せください】

〒168-8510 ※住所なしで届きます

機関紙「浴風会」編集部係

sounu2@yokufukai.or.jp

http://www.yokufukai.or.jp/